

102-272

問題文

前問での提案の理由となるシプロフロキサシンとスクラルファートの相互作用の機序として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 胃内pHの変化に伴う溶解性の低下
2. 消化管内における難溶性キレートの形成
3. 消化管吸収に関わるトランスポーターの阻害
4. 血漿タンパク結合の阻害
5. 腎尿細管における再吸収の阻害

解答

問272 : 3, 5問273 : 2

解説

問272

問273 とまとめて解説します。

問273

スクラルファートは、ショ糖硫酸エステルアルミニウム塩です。胃粘膜保護薬です。

シプロフロキサシンは、ニューキノロン系の抗菌薬です。DNAジャイレース阻害薬です。ニューキノロン+金属イオン含有製剤 ではキレート形成により吸収低下が見られます。同時に使用する場合は時間をある程度開けての服用で相互作用を軽減することができます。

問272 の選択肢 1 ですが

変更したのもニューキノロンなので、やはり相互作用により吸収低下してしまいます。

選択肢 2 ですが

セフジニルはセフェム系抗生物質です。これも、ニューキノロンと同様に金属とのキレートを形成する相互作用による吸収低下が知られており不適切であると考えられます。

選択肢 3 は、正しい記述です。

選択肢 4 ですが

増量しても吸収率が低いのではあまり意味がなく、また、吸収されずに消化管に到達する薬の量が多くなることから、副作用として腸内細菌への悪影響のおそれがあり不適切であると考えられます。

選択肢 5 は、正しい記述です。

以上より、問272 の正解は 3,5 です。

問273 の正解は 2 です。